3　次世代人材育成・文化・スポーツ特別委員会における柳下礼子県議の質疑

2011年12月20日

柳下委員

1　以前にさいたま芸術劇場で行われた芸術総合高校の10周年フェスティバルの生徒の演奏に非常に感銘を受けた。文化の振興のためにはこの高校の役割も大きいと思う。また、一般の小・中・高校でも将来芸術関係に進もうという夢を持った子も多くいる。

　文化のうち特に音楽の中で、ピアノの購入はどういう形になっているのか。現場の声、父母の声としては、例えば、ピアノメーカーのＡ社とＢ社を比べると、長く使っているとＡ社の方が優れており、大学の入試等でもＡ社を使用しているためＡ社にしてほしいなどと言っている。県としては安い価格という観点があるかもしれないが、質の良い音楽教育を目指すなら良い楽器を購入することが基本だと思う。楽器等の購入についてはどのようになっているか。また、文化の質も求めるならば、現場の声をどう受け止めているのか。

2　博物館、美術館等の事業の充実とあるが、学芸員の役割は非常に大きい。そこで学芸員の人数の確保が必要と思うが、どのように取り組んでいるか。

3　近代美術館における絵画等の美術作品の購入について、予算もあまりないと聞くが、最近の作品の購入状況、今後の購入予定について、あの作品が見たいから埼玉に行こうというのを聞かないので伺いたい。

4　優れた子供たちを意識的に育成するのではなく、裾野を広げてどの子供、成人、高齢者、障害を持っている人もどの人でも体力を向上させる、健康であり続ける、そのためには必要な施設の整備などが重要になってくる。生涯スポーツとしてどう考えているのか。

　サークル活動などで公民館など場所がとれなくて困っているとよく聞く。競技スポーツでも所沢の市民体育館の大ホールを借りられないから小ホールでやるということもある。一生懸命頑張っているけれども施設が足りなくて困っている市民のためにも、市町村と協力してスポーツ振興について県としてもしっかりとやっていただきたいと思うがどう考えているのか。

5　今年に知事のとことん訪問で訪問された、所沢にあるＮＰＯ法人のＮＢＡバレエ団は、都内やロシアでも公演をするような有名なバレエ団だが、埼玉にあるのに会場確保ができないためさいたま芸術劇場で公演を一度もしていない。こういうＮＰＯ法人の芸術団体への育成、支援をどう考えているのか。

高校教育指導課長

1　音楽ではできれば良い楽器で教育を行うのは必要であると考えている。しかし予算との兼ね合いもあるので、生徒のニーズとの折り合いも考えて、予算の範囲内で各学校が選定しているところである。

総務課長

2　学芸員の採用については、学芸員の職員構成などを考えて行っている。現在、地質学、歴史学等の分野で来年４月１日からの４名の採用に向けて、試験を実施しているところである。なお、昨年度は３名採用している。

生涯学習文化財課長

3　最近の絵画作品等の購入としては、平成21年度に美術作品取得基金により、150万円相当の小村雪岱の「雪の朝」という作品を購入している。また、それ以前には横山大観のコレクションの寄贈などもあった。

　ただし、購入予算が少なく、基金については残額が20数万円であり、なかなか作品の購入は困難な状況にあるため、企画展等については美術館同士の相互貸借などの方法を活用しなが

ら、今後とも、県民の皆様に魅力のある企画展を提供してまいりたい。

スポーツ振興課長

4　委員のおっしゃるとおり県民の誰もがそれぞれの体力・年齢・興味関心に応じて、いつでも、どこでも、いつまでも主体的にスポーツに親しむことができるような取組を県でも積極的に進めていきたいと考えている。

　また、場所が足りないという件についても、県では県立学校の体育施設等を中心として開放を進めている。例えば、県立学校のグラウンドをいくつかに分けて開放するなど様々な工夫をすることで、今後開放可能施設の拡大を図っていきたいと考えている。

　委員お尋ねの公民館等で場所がとれないという点であるが、体育館等ではそこでしかできない種目、例えばバレーボールやバスケットボールというものを優先して選考していると聞いている。

　そういう中でどのようにしたら公平な形での対応ができるのか各市町村にも話をしていきたいと考えている。

文化振興課長

5　さいたま芸術劇場は14か月前から受け付け、応募が重なったときは抽選としている。ＮＰＯ法人の場合も特別な扱いは難しいと思われる。ＮＰＯをどう育成していくのかＮＰＯ法人を所管するＮＰＯ推進課とも相談させていただく。

柳下委員　スポーツは試合に出るとか、トップになるとか、一流の選手の養成のためではなく、もっと広く普通の人たちが自分の能力を伸ばせることが必要だと考える。最初は選手になろうと思わなくても、スポーツの喜びを感じながら、結果として一流の選手が生まれるものであるため、教育の分野で最初から一流の選手の養成を目的にすべきではない。そのためには、教員の多忙化の問題もある。よく教員の集まりでは、自分自身がゆとりを持たないと、部活動も含めゆとりある教育を実施できないと言われている。そのため、教員の多忙化解消に努めることが、ひいてはスポーツの振興につながると思うが、どうか。

総務課長　教員の負担の軽減について、教育局では昨年度、「学校における負担軽減検討委員会」を設置して検討している。現在、最終的な報告書をまとめるため検討を進めている。内容は部活動や教育活動など、幅広く検討している。教員の負担を軽減し、子供と向き合える時間を少しでも多くできるよう検討してまいりたい。

委員長　ほかに発言がないので、質疑は終了した。次に、本日の審査に関連して執行部に対し、意見・提言すべき事項を求めます。

　なお、意見・提言については、すでに御了承をいただいているとおり、２月定例会において委員会としての意見・提言を決定していくので、よろしくお願いする。それでは発言をお願いする。

柳下委員

1　文化芸術の振興のために、必要な学芸員の確保に努め、近代美術館の充実を図ること。

2　音楽教育などの充実のために、高校における楽器・機材については予算を大幅に増やしてより良い物を購入するよう努めること。

3　ゆとりある教育、文化スポーツの振興のために、教員を増やし、少人数学級の実現などで教師の多忙化を解消すること。

4　文化芸術関係の予算を大幅に増やし、いつでも、どこでも、誰でもが質の高い文化芸術に親しめるようにすること。